

令和7年度

総合型地域スポーツクラブアドバイザー
活動報告（10月～12月）

スポーツ庁は中学校部活動の地域移行について地域展開と表現を変えました。狙いとしては、学校・地域・家庭全体で子どもたちを支えていく（展開＝広げる）という考え方です。また一方で、この機会を活かして、新たな価値を生み出し、子どもたちの多様なニーズに応えていくことが重要だとされています。国の流れでは、令和8年度から「改革実行期間」に入り、可能であれば平日の部活動も地域展開に移行していくという考え方です。

各市町も改革を進めていますが、やはり温度差があります。総合型クラブ、競技団体、行政主体、地域スポーツクラブ等の様々なやり方を模索しています。

しかし、持続性を考える上で、組織体制が最も重要だと考えます。活動予算や責任所在の明確化も必須となります。子どもたちが地域の中で育ち、スポーツや文化に親しむために、部活動改革をきっかけに、地域づくり（町）の展望も考えていきたいです。

＜新たな価値の具体例＞

- ◆生徒のニーズに応じた多種多様な体験（例：特定種目に絞らないマルチスポーツ、スポーツと文化芸術の融合、レクリエーション的活動など）
- ◆生徒の個性・得意分野の尊重
- ◆学校の枠を超えた仲間とのつながり創出
- ◆地域の様々な人や幅広い世代との豊かな交流
- ◆適切な指導者による質の高い指導
- ◆学校段階にとらわれない継続的な活動（引退のない活動継続）
- ◆地域クラブの指導者による一貫的な指導体制の構築



10月

＜令和7年度アシスタントマネジャー養成講習会＞

福井市で、令和7年度アシスタントマネジャー養成講習会が実施されました。福井県では4年ぶりの実施でしたが、参加者は少なく、総合型クラブにおけるクラブマネジャーの役割が問われているようです。

クラブの登録・認証制度の要件にも含まれており、今後は有資格者の配置がマストになります。総合型クラブが持続可能な団体であるためにも経営面の安定は重要な仕事です。重要性の再認識を持つとともに、クラブマネジャーの待遇改善も考え直していく必要があります。

新制度の策定やスポーツ現場のニーズの変化と同じく、クラブのマネジメントもボランティアから有償化へステップアップしていくことを目指して助言していきます。



11月

<北信越ブロッククラブネットワークアクション2025>



北信越ブロッククラブネットワークアクション2025が、福井県で開催されました。コロナ禍の影響もあり、福井県での開催は6年振りとなり、今回は約90名の参加がありました。今年度は「5年後のクラブを考えよう」をメインテーマとし、基調講演やグループワークを実施しました。

5年前～現在を振り返り、現在～5年後に向けてワクワクする「夢」描き、それを実現するためにどうアプローチしていくのかを、2日間かけて考えていきます。若者プロジェクトの企画まで統一したテーマで構成し、充実した研修会を終えました。



情報交換会では普段交流することの少ない、県外クラブの方々と総合型クラブのあり方や、取り組んでいくべきことなどについて語らい、アドバイザーとしてもたくさんの学びがありました。



12月

<福井県地域スポーツミーティング>

地域スポーツクラブ推進体制基盤強化事業の福井県地域スポーツミーティングが開催されました。今回のテーマは、「スポーツ少年団と総合型クラブの連携」についてです。日本スポーツ協会から、少年団課とクラブ育成課の課長をお呼びして、現在の進捗状況と情報提供をしていただきました。お互いに課題を持ちながら、どのように連携すれば地域の子どものスポーツ環境が構築できるかを探りました。現場の声をどのように拾うかも大きな課題です。行政と協力し、新しいスポーツ環境をデザインしていきたいです。

